

大統領の裁可を得
新産業組合法近く公布
裏面の功勞者コスタ農相

これは、非人經營産業組合（せいにぎやうさんぎょうくわい）でも相當多額の出費が助かる
といふものである

エメボイデ

晴れのサ
クルース
植民地

部州税だつたため、州政府の方針が明かにされぬが、中央集権制が確立されてゐる。このことには云へないが、中央集権から、州としてゐる當然の聯邦に準據するが當然と見らる。フェルナンデス農相の委嘱により、サンタクルース聯邦植民地へ一植民を入れ始めたことは既報の通りだが、フェリウオ大統領は農相の熱心な勤めを容れらる。

先天的犯罪型の特長なし

ランペオン事ビルゴリーノ・シルバ・フエレイラの首を解剖した警察医ドットール・ラ

準備萬端
OK

今中年に……

パラナ州政府で
は豫て同州ポシ
タ・グロワッペ
日本移民廿五中
族認入を聯邦
勞働省へ申請中
の處この程勞働省から正式許可されたが、この廿五家族の移民こそは水野翁經營の土佐村へ入植する高知縣移住組合改稱移民である、高知縣移住組合では水野翁の事業に協力

すため武政主事を過日入港
のリオ丸で渡伯させたが、水
野翁はこれが出現へのために去
る一日出仕目下トキヲ旅館帶
て上り住仕地の事業につき左
の如く語る

仕事の方はトシ／＼調子で
進んでゐます、もう周圍調
子を濟まして目下地區別に
取りかゝつてゐるが、本年
中には廿軒のコミュニティを
建てる心算であります、只今
六家族の者が入植してゐる

既既、銚後婦人會では
告げる母國ノ非常時に、益

コロニア廿軒建築

が八月四日神戸戸出帆のラバ
ラタ丸で三家族バストス経営
名義で來伯することとなつて
ゐます、この三家族は
去年バストスに在仕して
年土佐村へ入植する事に
てゐます云々

銚後婦人會で 「映畫の夕」開く

九日夜七時半より

移民募集の廣告を見て

年薩摩守

去る一日サントス入港のりオ丸は三月振りで大量の移民さんを乗せて来ただけであつて、色々な話題をバラ撒いてゐるが、南米へ行きたいばかりにフラウツと同伴に乗込みブラジル迄の薩摩守を極め込んだ十六歳の邦少年があつた

川北三郎君へ

金呉れてタダでつれて行つてくれるとあつたので今年の

好奇心から

神戶の埠頭に來て

見るとりオ丸が永の航にのつてくべくゆるやかに煙吐いて

同君は渡伯するのに旅費や手賃が必要だなんてこととは毫も氣がつかなかつたからしく、たゞ船に乗り込めは金を呉れたと連れて行つてくれるものと思ひ、五百

城参事官 質問したが

は伯字記者團に

事件發生
よりのソ
コールサイン
周

側の不法越境の事實、驅放
 沙坪坪は一八六〇年及び
 一八六六年の日清條約によ
 り滿洲であることは地圖上
 瞭然であることと述べ、なほ
 其の感想を質問に對し、個
 人に對し入江書記生は同盟電
 の報道に従つて事件發生は
 今日までの一瞬の不法に
 する日本國の歴史を語
 る、記者團は再度天城參事
 に向つて事件後の成行を
 前
 六
 五
 五
 日一
 金
 最近のトビツ
 流行歌

放送時間
 日本時間午前六時
 G M T 前日二時三十分
 亞國前日午後五時
 伯國前日午後六時
 四日一木
 國民歌謡
 ダンス・ミュ
 ツク

J Z
 J Z
 K
 一五八

九日一火 眞
六・四五 講演(日本語)「故
リオ丸移民監督として來伯し
た和歌山縣社會事業主

同日
六曜 ピアノ獨奏
十一日水

前日
六曜 獨唱
十二日木

前日
六曜 最近のトビウク
十三日金

前日
六曜 日本國立公園めぐり
十四日土

前日
六曜 講演原稿代讀(日本語)「日本の文化」
十五日金

前日
六曜 シリシ「佛教文化」
十六日土

前日
六曜 米峠
十七日土

前日
六曜 吹奏樂
十八日土

前日
六曜 ダンス・ミュージック
十九日土

同日
六曜 文博盛行事「文藝遊覧見榮」
二十日水

同日
六曜 同僚人事務部氏は左の日程で各地を訪問した後十月二十九日歸國する由
二十一水

同日
六曜 アリアンサ「十四日バスト」
二十二火

同日
六曜 アリアンサ「十五日バスト」
二十三水

同日
六曜 アリアンサ「十六日バスト」
二十四木

同日
六曜 アルチーナ「二十三日バウル」
二十五金

同日
六曜 アルチーナ及び近郷更にモディナ線及びパルマをも視察する
二十六土

同日
六曜 求
二十七土

同日
六曜 十四、十五歳の店員を通ひ度し右御希望の方は左記へ
二十八土

同日
六曜 聖市イルマン街五〇の
二十九土

同日
六曜 松岡電氣店
三十日土

あると先程チエテ
移住地では中堅青年講習會を
一、講習法 合宿訓
一、聴講生 各青年

パワロに於て「映画の夕」
催すことゝなつた
上映フィルムは、松竹特作
の故意に惹き起し
あるから當然ソ聯
を負ふべきものと
なつた

地である廿二日より廿七日
で左の要領で開催すること
なつた

名以内出虎のこと
辨、會費十ミル、八
十ミル

赤アサの邦人青年

昨日午前九時半頃
聖市目抜きの通り
デレタ街にある
二ミル均一店ロー
ジャ・アメリカ
警察へつき出された

日本病院建設寄附金勧誘も完成を免最後の馬力をかけた

附金があつた
 坂根總領事五コソト、宮澤
 海興支店長四コソト、宮澤
 田拓當務員四コソト
 なほ右の外東船及び幹部より
 二十一コソト、プラスコソツト
 會社及び幹部に於て十八コソ
 ト八百ミルを寄附することによ
 内定した由

和歌山縣社會事業主事
 任執邨氏奥地へ

同乗人を言明した後十一月十日
日出帆のモンテビデオ丸で歸
國する由

▲七日からチエテ▲十二日
アリアンサ▲十四日バスト
ス▲十八日ボンベア▲十
九日マリヤ▲二十二日ダ
アルチーナ▲二十三日パウ
ル▲二十六日歸聖、更にモ
チアナ線及び近郊をも視察
する

▲七日からチエテ▲十二日
アリアンサ▲十四日バスト
ス▲十八日ボンベア▲十
九日マリヤ▲二十二日ダ
アルチーナ▲二十三日パウ
ル▲二十六日歸聖、更にモ
チアナ線及び近郊をも視察
する

棉メイヤ作者募集

當社は棉メニア作者に對し諸費
給す
當社の棉作地は棉作に對し最も
した土地でカンピーナス農業組
と協定してゐるもので其優秀棉
出來ます
尙棉作地アレングもす、詳細は
接本社へ

寄手續
識手帳

其他法律について總て
御心配事の御相談をお
け致します

黒

聖市イルマン・シンブリ

羽 頼 商 主

聖市イルマン・
シンブリシアナ街第
郵 函 二二 A
電話 二・一五七五

今次日支事變國を舉げて
當時の際我等在伯同胞も
協力赤誠報國の意を表し
ある折當日本會に於て
力なからその一端にもと

荻原

新メルカード前
Ran Cares, 136
Phone 2-6467
S. Paulo

帯川

餞

昭和十三年八月一日

マリアア嬢
フロクレツツ

日本人

献金者芳名

金二百ミル 深瀬清三
金五十ミル宛 田中兵衛
金五十ミル宛 宮本武吉
田代三次 前川一興
田代三次 西村原一
田代三次 杉浦正治
田代三次 高郎

聖市タナケラ街七二番
電話 二二七六二

子 供
 もらひ度し
 方ジシヤアイにて夫婦二
 カマラダ二人に
 マテ其の他野作りをなし
 のめです
 飲兒にて可く育てたし、
 わしく問合せは
 日伯社出張所へ
 金隆三 今野宛 保科勝雄
 台三郎 吉野 重子 南野
 達吉 人 茂重 三郎
 蔵之助 山田 正井 善次
 太田 昌山 田 藤原登三
 木英草 川 五十五
 金政市 井野村 藤原橋
 鈴木寛 石 裕
 金三郎 代政 由松 裕
 池田善之 佐藤 一達
 木秀五郎 佐藤 藤原

台 計
 一コント四百十五

—

1
